

長久手市高齢者福祉や介護に関するアンケート結果 補足

1 一般高齢者

| ページ | 項目 | 結果の傾向 |
|----------------------|-----------------------------|--|
| P. 9 問 11 | 外出 | 年齢が高くなるほど外出回数が減少する。 |
| P. 17 問 23 | 食事の用意 | 男女差が大きい。男性では「できるけどしていない」の比率も高く、「できない」という回答も男性全体で 12.3%ある。 |
| P. 20 問 26 | 買い物で困ること | 「店までの距離が遠い」「重いものが持てない」という回答が困る理由の上位 2 つであるが、東小学校区では 28.6%の人が「店までの距離が遠い」と回答している。 |
| P. 24 問 31・ 32 | 現在と 5 年後の 困りごとや不安 | 現在の困りごと、不安として最も多いのは「健康のこと」で、25%の人が挙げていて、5 年後には半数以上の人不安に感じている。また、5 年後には、介護や、急病時の対応だけでなく、食事や買い物など日常的なことも不安に感じている人が 2 割弱ある。 |
| P. 25 問 33⑦ | 収入のある仕事 | 年代、また男女で差がある。69 歳以下の人では、男性は約 44%、女性も約 28%が週 1 回以上の仕事をしていると回答。70～74 歳の人では、男性で 33%、女性は 18%が週 1 回以上の仕事をしている。 |
| P. 27 問 35 | 近隣に住んでいる 人のことを知 っているか | 「あまり知らない」「ほとんど知らない」「まったく知らない」という回答は、東小学校区では約 20%なのに対し、西小、市が洞小学校区では半数前後であり、地域によって差がある。 |
| P. 28 問 36 | 隣近所とつきあ いがあるか | 長久手小、東小学校区で多く、南小、市が洞小学校区で少ない。 |
| P. 39 問 50 | 介護が必要にな ったときの希望 | 自宅での介護を希望する人が半数を超えている。また、年齢が上がるにつれて、自宅での介護を希望する人が多くなる。また、男性の方が女性よりも自宅での介護の希望が強い傾向が認められる。 |
| P. 40 問 50-1 | 最期まで自宅で 過ごしたいと思 うか | 9割以上が「自宅で過ごしたい」と回答しているが、そのうち「現実には無理だと思う」という回答が 58%ある。また、男性のほうが「自宅で過ごしたい」という回答が多くなっている。 |

2 要支援・要介護認定者

| ページ | 項目 | 結果の傾向 |
|--------------------|--------------------|--|
| P. 52 問 7 | 施設への入所・入居の検討状況 | 約13%が「入所を検討している」、11%が「申込みをしている」と回答している。 |
| P. 54 問 7-3・7-4 | 入所したい時期・理由 | 「当面は希望しないがとりあえず申し込んでいる」という回答も半数近くある。 理由としては、単身世帯では「自宅で介護できる家族がいない」を挙げる人が多く、その他の同居世帯では、「家族の介護負担が大きい」と回答する人が最も多い。 |
| P. 55 問 9 | 現在利用している介護保険外のサービス | 配食の利用が最も多い。世帯類型別に見ると、単身世帯で利用していると回答した率が多くなっている。 |
| P. 56 問 10 | 今後必要な介護保険外のサービス | 必要と感じているものでは、移送サービス、外出同行の回答が上位となっている。 |
| P. 58 問 13 | 買い物 | 校区別に見ると、東小学校区で「できない」という回答が多くなっている。 |
| P. 64 問 19 | 介護を受ける場所 | 全体としては「自宅で介護サービスを利用しながら」という回答が多いが、西小、市が洞小学校区では「特養などの施設に入りたい」という回答が2割前後ある。 |
| P. 65 問 19-1 | 最期まで自宅で過ごしたいと思うか | 大多数の人が「自宅で」と思っているが、「現実には無理だと思う」とする人が半数近くある。校区別では、東小、北小学校区で「自宅で過ごしたい」という回答が多い。 |
| P. 66 問 19-2 | 最期まで自宅で過ごすことで不安なこと | 「家族に介護などの負担がかかること」を理由に挙げる人が最も多くなっている。 |
| P. 74 問 26・27 | 主な介護者 | 子・配偶者の順に多いが、北小・南小学校区で「配偶者」という回答が多い。性別では女性が7割。 |
| P. 76 問 29 | 行っている介護 | 直接的な介護よりも、家事、食事の準備、諸手続き、外出の送迎といった内容が上位を占めている。 |
| P. 80 問 32 | 介護者が不安に感じる介護 | 「認知症状への対応」「夜間の排泄」が2割前後で上位となっている。 |
| P. 81 問 35 | 介護者が困っていること | 「精神的な負担が大きい」「自分の時間が持てない」という回答が3割を超えて上位を占めている。 |

3 サービス提供事業者

| ページ | 項目 | 結果の傾向 |
|----------------|--------------------|--|
| P. 88 問 6 | 運営上困っていること | 「従事者の確保」が最も多く、8割を超えている。次に「従事者の資質向上」「利用者の確保」が続く。 |
| P. 90 問 9 | 職員の充足状況 | 「少し厳しい」も含めて「厳しい」という回答が8割近くを占めている。 |
| P. 92 問 13 | 不足している人材 | 「介護福祉士などのケアスタッフ」という回答が最も多く、自法人で不足しているという回答が8割近くの法人であった。また、市内において、「リハビリの専門家」が不足しているという回答も1割あった。 |
| P. 103 問 31 | 事業者として問題点と感じていること | 「雇用の確保」「介護報酬が低い」という回答が約3/4を占めている。 |
| P. 105 問 34 | 在宅生活継続のために重要と思うこと | 「24時間対応のサービス体制の整備」「介護保険外のサービスの充実」という回答が半数前後ある。 |
| P. 106 問 35 | 行政の支援が必要と思うこと | 19の選択肢から5つまで選択可とした設問だが、「人材確保の支援」という回答が84%と突出して多い。 |
| P. 107 問 36 | 看取り | 約4割の法人で、過去1年間に看取りをしたケースがあったと回答している。 |
| P. 108 問 37 | 病院以外での看取りのために必要なこと | 「後方支援病院の確保」「医療機関との協力体制の構築」といった医療機関との連携が上位であるが、「職員の医療的ケア技術の習得」「家族を支援する体制の整備」が続いている。 |
| P. 109 問 38 | 市内で整備の必要があるサービス | 回答数が少ないが、通所リハビリ、訪問リハビリといったリハビリにかかわる事業所が挙がっている。 |
| P. 110 問 39 | 今後の事業展開 | 5法人が拡大を考えている。 |

4 ケアプラン作成担当者

| ページ | 項目 | 結果の傾向 |
|------------------|----------------------------|--|
| P. 113 問 3 | 保有資格 | 「介護福祉士」を基礎資格に持っている人が多い。 |
| P. 115 問 6 | 負担に感じる こと | 「困難なケースへの対応」が最も多く、続いて「時間の確保」「主治医との連携」が半数を超える |
| P. 116 問 7 | 困っているこ と | 「医療の知識が足りない」という回答が最も多く、「時間が取れない」「書類の作成」という事務的な事柄も上位に挙がっている。 |
| P. 118 問 9-1 | 量的に不足し ていると感じ るサービス | 「通所リハビリテーション」という回答が最も多い |
| P. 120 問 10 | 不足している と思う職種 | 「介護福祉士などのケアスタッフ」「リハビリの専門家」が半数を超え、「介護支援専門員」という回答も半数近くある。 |
| P. 122 問 13 | 在宅生活継続 のために重要 と思うこと | 事業所のアンケートと同様「24時間対応のサービス体制の整備」「介護保険外のサービスの充実」という回答が多い。 |
| P. 124 問 15 | 病院以外での 看取りのため に必要なこと | 事業所アンケートで上位に挙がった「後方支援病院の確保」「医療機関との協力体制の構築」に加え「短期入所サービスの充実」も2番目に回答が多く挙がっている。また、「家族を支援する体制の整備」も半数近くが挙げている。 |
| P. 126 問 18-1 | 施設を望む理 由 | 高齢者本人にとって影響が大きいものとしては、「疾患などの身体状況」が最も多く、「急変の不安」「介護負担への不安、遠慮」が続く。 |
| P. 127 問 18-2 | 施設を望む理 由 | 介護者にとって影響が大きいものとしては、「介護負担への不安」が最も多く、「急変の不安」「常時、夜間の対応ができない」という回答が多くなっている。 |